

これまでは問題が起きてから対応することがほとんどで、計画的な活動を行うことができませんでした。事後対応から予防保全に切り替えたいと製品を探していたところ、スマートサウンドプローブを展示会で見かけデモ機を依頼しました。機器の音を確認したところ、メンテナンス実施前後の音に差が見られたため採用を決定しました。学習機能についてはこれからですが、日々の変化を記録していきたい予防保全に役立てたいです。

食品関連メーカー 保守管理部門

開発機器にピストン駆動の圧縮機を使用していますが、周辺の騒音が大きく、通常の機器では動作音の収録ができていませんでした。スマートサウンドプローブで収録したところ、周囲の騒音に関わらず、正常音と異常音を収録することができました。

燃料関連メーカー 機器開発部門

スマートサウンドプローブ(SSP03-01)	
外形寸法	45(H)×45(W)×260(L)mm
重量	約200g
使用温度	0~35℃
電源	4LR44×1
付属品	接続ケーブル(1m)、収納ケース
測定用携帯情報端末	
アプリ	JSM-S4
容量	32GB
通信方式	Wi-Fi
管理ソフト(JRCS Sounding Manager S4)	
OS	Windows10 pro 64ビット
CPU	Corei5(推奨)
メモリ	8GB(推奨)
容量	256GB(推奨)
空き容量	60GB以上

※上記内容は予告なく変更することがございます。

まずは、お問い合わせください

Smart Sound Probeに関するお問い合わせは
お電話またはホームページ・メールアドレスからご連絡ください。

▶ホームページURL
<https://www.jrcs.co.jp/>



▶「スマートサウンドプローブの件で」とお気軽にお電話ください

▶メールアドレス
ssp.info@jrcs.co.jp

083-261-0210

受付時間/平日8:30~17:30

▶製品紹介動画URL
<https://youtu.be/kF28oWeB5E8>



● 商号 / JRCS株式会社
● 住所 / 〒750-8515 山口県下関市東大和町1丁目2-14
● TEL / 083-261-0210
● FAX / 083-261-0209
● e-mail / jrcs@jrcs.co.jp

● 設立 / 1948年8月18日
● 資本金 / 2,000万円
● 代表者 / 代表取締役社長 近藤 高一郎
● 事業内容 / 船舶用配電機器、制御・計測機器の製造、販売
船舶用電気・電子機器及び部品の販売

勘や経験に頼らない
客観的な保守点検をしませんか？

保守点検の初心者でも 異常を発見できる



Smart Sound Probe 電子聴音棒

「点検の際に、このような経験ありませんか？」

点検する作業者によって測定に差が出てしまう…

経験の浅い担当者だと異状を見逃してしまうことも…

周囲の騒音が大きくて、異音を聞き取れない

工場内を頻繁にトラックなどが通るので毎回同じ条件で測定できない

正確に判断しようとする作業に時間がかかってしまう…

「Smart Sound Probeで次のように変わります」

変化 1 コスト削減効果

“音”により機械の異状をいち早く発見することができ、メンテナンス費用を最小限に抑えることができます。また、機械を止めての点検作業を減らすこと、データに基づいて部品交換サイクルを見直し適正化することで、無駄のないオペレーションが行えます。



変化 2 点検作業の短縮化・標準化

点検作業にかかる時間を短縮し、異音のチェック体制を標準化することができます。熟練者に頼ることなく、どの作業者でも点検作業を行うことができるので業務の効率化にも繋がります。



変化 3 ベテランエンジニアのスキルを財産に!!

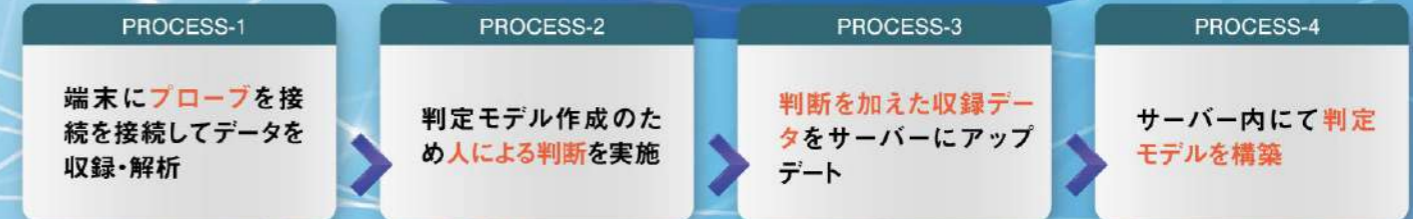
音をデジタル化することにより、客観的なデータを蓄積して保存することができます。さらに機械学習により、データを蓄積すればするほど判断精度が上がります。また、過去の事例を登録することで、事例検索が可能。不確かな個人の記憶に依存せずに済み、データベース化して情報共有することで作業者全体のレベルアップにも繋がります。



熟練者の技能伝承をサポートするツールとしても利用できます!

「なぜ、異状が判定できるようになるのか？」

工場機械の日常的な点検は、見た目やわずかな異音など、熟練作業員の経験・勘に頼ることが多く、経験の浅い作業員では異状を発見することが難しいというのが現状です。「Smart Sound Probe」は、人によって聞こえ方が異なる“音”を、客観的な判断材料として活用することが可能となりました。



これらのプロセスを繰り返すことで判定モデルの精度が上がります。



機能紹介

FUNCTION 1 騒音に強い

接触式センサーを使用することにより外部ノイズを大幅に低減。騒音下での利用も可能です。

FUNCTION 2 見える化

音をデジタル化し処理することで視覚的に確認できます。

FUNCTION 3 機械学習による判定機能

集めた音の特徴を抽出し判定モデルを作成することで客観的な判定をすることができます。またデータの蓄積により、判定モデルの精度が向上し正確かつ早期に異状を発見できます。

FUNCTION 4 操作は簡単

小さくシンプルな構造で使いやすさを重視。面倒な操作や設定は不要、ワンタッチで機器情報の読み込みができます。データサーバーとの同期も簡単。

FUNCTION 5 データベース機能

音響データや関連情報を登録することで、事例検索が可能。オペレーター個人の経験値や記憶に依存することなく機械情報を社内へ正確に蓄積することができます。